

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
平成30年度自己評価表

評価基準  
4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

1. 教育理念・目標

担当	評価項目	H30評価	H30達成状況	2019年度に取り組むべき課題等
林副校長	・教育理念等を明文化しているか。 ・教育理念等を教職員に対して周知徹底を図っているか。 ・教育理念等を公表しているか。	4	・本校パンフレットにて周知している。 ・Webサイトにて公表。入学および保護者には入学ガイダンスにて周知している。 ・在校生・教職員には学生手帳を配布している。	・特になし
	・教育目的・目標、教育計画が文書化され、提示されているか。	4	・カリキュラム、シラバスを作成し、よりわかりやすい形で学生に提示している。 ・カリキュラムは、臨床実習施設にも配布。 ・シラバスはWebサイト「本校のHP」から時間割と共に閲覧可能。 ・本年度、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについて、HP上で公開した。	・本年度は、PT・OT養成施設指定規則の改訂が予定されており、改訂に応じた変更予定

2. 学校運営

担当	評価項目	H30評価	H30達成状況	2019年度に取り組むべき課題等
林副校長	・理事会、運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に開催されているか。	4	・理事会、岩崎学園管理職の会議、本校教務部会議・学科会議・各業務会議・朝礼を開催。加えてグループライダー会議が加わった。	・学園の組織改編に伴い対応していく
	・事業計画が定められているか。	4	・年度ごとに定めている。	・特になし
	・予算・収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	・有効かつ妥当に運営できている。	・特になし
	・就業規則等は定められているか。	4	・定められている。	・特になし
	・教職員一覧表(採用年、資格、年齢、学歴等記載)はあるか。	4	・学校基本調査に合わせて年に1回更新している。	・特になし
	・業務分掌は適切か。	4	・年度ごとに各業務担当(図書・備品、国家試験対策、学校行事、臨床実習、FD)を決定し、遂行している。	・新年度の業務分掌を策定した。 ・事務局に男性新人職員が入り派遣職員2名が勤務し、マンパワーの不足は解消されている。
	・人事考課は制度化されているか。	4	・夏冬賞与時、年度末実施。	・特になし
	・出退勤が適切に管理されているか。	4	・タイムカードまたは出勤簿、届出を月次管理。	・特になし
	・公印が管理されているか。	4	・「公印簿」に記載。	・特になし
	・教職員の健康診断を実施しているか。	4	・年1回実施(平成30年度は実施済)。	・健康診断は平成31年4月1-2日に実施済み
・情報システム化等により業務の効率化が図られているか。	4	・学籍管理、成績管理、証明書発行、学生募集等システム化。学生に配布するシラバス・教材等はネットワーク上サーバにてアクセス可能にしている。	・平成29年度より学園共通データベース運用している。	

3. 教育活動

担当	評価項目	H30評価	H30達成状況	2019年度に取り組むべき課題等
水島	・シラバスのとりまとめと学生への周知はできたか。 ・シラバスの活用方法について情報を収集し、検討したか。	3	・開講前に各教室にシラバスの冊子を配置し、学生ネットワークに時間割と共に開示した。 ・配置時に、各科目担当教員や担任より学生への周知・活用を依頼した。	・ネットワーク上での公開について検討する。 ・奨学金新制度に適應するようシラバス書式を一部改良したものを導入。
	・育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。	4	・総単位PT123・OT120単位(指定規則93単位)。教育課程および授業時限数、学則は所管の神奈川県厚生労働局に提出済である。 ・2020年4月入学生から適用になる指定規則改定に適應する新カリキュラムについて検討を重ねた。	・新設された項目、他校にはない本校オリジナル科目を加えた特色のある新カリキュラムを作成する。
	・カリキュラムは事前に学生に周知しているか。	4	・入学生には入学オリエンテーション時に配布し、説明を行った。	・2019年度も同様に実施済み。
	・カリキュラム作成に高校生の現状を反映させているか。	4	・学生募集イベント「体験入学」にて入学前の高校生に実施している模擬授業等から高校生の現状を把握している。 ・入学試験時の個別面接において、生活習慣、学習習慣、社会適応力などについて聴取し、必要なカリキュラム改定を実施している。 ・教職員2名が県立高校3校(横浜南陵・瀬谷・金沢総合高等学校)にて評議員を務め実情を確認した。 ・平成30年度入学生の入学前学習の受講状況について把握した。	・2019年度も同様に実施する。 ・高校での出張授業に積極的参加し、現状を把握する。
	・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	・学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会にて、情報を収集した。 ・岩崎学園就職指導部が卒業生就職施設へのアンケート調査を実施した。 ・関連分野の非常勤講師と意見交換を実施した。 ・臨床実習訪問時に、卒業生の状況、学校への評価などについて随時聞き取り調査を実施している。	・2019年度も同様連携していく。 ・アンケート結果について分析する。
	・社会のニーズや学生の質に合わせたカリキュラムの見直しができたか。	4	・指定規則改定に伴い新カリキュラムについて検討を重ねた。	・新カリキュラム作成する。
	・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	・シラバスに記載・学生へ周知している。	・特になし
岡村	・教員の採用について、専門性確保の観点から基準が設けられているか。	4	・学歴、業務経験等、担当科目により基準を設けて取り組めた。	・引き続きの方針で実施する。
	・授業スキルの向上のため、校内職員研修会を充実させ、組織として「確かな学力」、「考える力」を育成するための授業づくりを推進し、学生への指導スキルの向上を目指したか。 ・学生による授業評価(授業アンケート)の結果において、授業に対する積極性の向上は見られたか。 ・授業アンケート結果を受け授業の見直しを行ったか。 ・授業アンケートの活用方法について情報収集を行ったか。 ・教員の外部講習会への参加がみられたか。	4	・2019年度にシラバスの項目追加を行い、講師の経歴を記載した。 ・授業アンケートは適正に実施され、回答率は前期94.5%、後期92.2%であった。また、各担当から結果のフィードバックも行われた。 ・シラバス改定についてアンケートを行った結果、シラバスを見ている学生は6割を超えていたが、内容については十分活用されていない現状が明らかとなった。 ・教員間の授業参観を企画、実施し、フィードバックを行った。授業参観の評判は概ね良好で、有益であった。 ・授業アンケートの活用についてのアンケートを実施した。 ・教員は積極的に外部講習会へ参加した。	・授業アンケートの回答率にクラス間差があるため、できるだけHR時間内に実施し、学生の意見を吸い上げる方法として活用する。 ・シラバスは担当教員が確認することで、科目間の記載のバラツキを減らし、公開に向け準備する。 ・教育関係各種講習会への参加計画を積極的に勧める。
	・教員の指導力向上のための研修会の開催や外部機関での研修参加を促進することができたか。	4	・両学科ともH30年度の学会や各種研修会等へは積極的な参加が見られた。PT学科は32の学会・研修会に述べ59名(昨年は31の学会・研修会にのべ46名)、OT学科は10の学会・研修会に20名(昨年は9の学会・研修会にのべ31名)の教員が参加した。	・引き続き、研修会の参加や学会発表を促し、必要に応じて報告会を実施する。
	・非常勤講師との定期的な情報の共有を図っているか。	4	・年度替わりに次年度の「教務のしおり」を郵送し、確認をお願いしている。また、個々の教員が自分の教科の関連や担任として、非常勤講師との情報交換を実施している。	・2018年度に引き続き、必要に応じてさらなる情報交換を図る。
・担任業務サポート業務のマニュアル化において、昨年度作成したマニュアルの検証を行ったか。 ・そのマニュアルに調整を加え次年度の本実施に向けたものが完成したか。	4	・概ね実施された。	・適宜マニュアルの見直しを行い、より良い活動に促す。	

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
平成30年度自己評価表

瀬戸山	臨床実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習依頼がスムーズに行えたか。</li> <li>・必要な実習施設の確保ができたか。</li> <li>・回答結果、承諾書の集計と管理ができたか。</li> <li>・実習施設からの申請書、契約書の管理ができたか。</li> <li>・回答結果に対する公文書の送付がスムーズに行えたか。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習依頼、実習施設確保、承諾書の集計と管理、実習施設からの申請書、契約書の管理は概ね滞りなく実施した。</li> <li>・回答結果に対する公文書の送付についてはトリプルチェックを行い、概ね滞りなく実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部に発送する文書・提出する文書については、トリプルチェックを継続していく。</li> <li>・実習地確保関連、厚労省への施設登録関連について、タイムスケジュールを確認し、業務のめがねがないように留意する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習開始までに、厚労省への申請手続きが終了できたか。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の厚労省への新規実習施設申請は、理学療法学科9件・作業療法学科14件の登録を行った。滞りなく実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な実習を実施できるような、指導者会議を企画・実施し、出席者数の増加や臨床教育の向上につながったか。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者会議運営については、滞りなく実施できたが、指導者会議参加率が3年次指導者会議において昨年度に比較して減少している。4年次指導者会議においては、昨年度より参加率が向上している。</li> <li>・指導者会議参加率：3年次理学療法学科77.7%・作業療法学科68.0%、4年次理学療法学科83.2%・作業療法学科72.7%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次指導者会議参加率を向上させるための企画検討が必要である。</li> </ul>
水島	情報公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望受験者・保護者には、授業を公開している。</li> <li>・カリキュラム一覧表並びに授業風景、国家試験の合格率、就職率について本校HPおよびパンフレットにて公開している。</li> <li>・「教育課程編成委員会」及び「学校関係者評価委員会」の議事録をHP上に公開している。</li> <li>・授業アンケートの結果については、各科目担当者が学生にフィードバックを直接行うのみで、まだ公開はしていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバス公開と併せて、授業アンケート結果及び対応などの公開を検討する。</li> </ul>

4. 教育成果

担当	評価項目	H30評価	H30達成状況	2019年度に取り組むべき課題等
岡村	資格	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年スポーツ指導者資格取得認定校の手続きを実施した。</li> <li>・4年生全員の障害者スポーツ指導員の認定手続きを実施した。</li> <li>・1年生全員の障害者スポーツ大会サポート実習(ボランティア)をとりまとめた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度スポーツ指導者資格取得認定校の手続き</li> <li>・4年生全員の障害者スポーツ指導員の認定手続き</li> <li>・1年生全員の障害者スポーツ大会サポート実習のとりまとめ</li> </ul>
	卒業研究	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究手順や論文作成に関して、詳細かつ具体的な指導要綱の作成し実施した。</li> <li>・発表会は円滑で、質問も多く出された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度も作成した指導要綱で実施し、教職員の意見を頂き、必要に応じて改正する。</li> <li>・具体的かつ詳細なスケジュールを提示し、進めている。</li> </ul>
島田	国家試験・卒業試験	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度同様、国試問題携帯版を実施した。</li> <li>・臨床実習終了後の11月より特別講義等実施した。</li> <li>・国試学生担当者による面接を随時、実施。</li> <li>・学習低迷者に対して特別教室を設置し、対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験の傾向、対象学生の状況など、情報を整理して学生指導に反映される対策を検討していく。</li> <li>・国試対策を4年生にのみ実施するのではなく、他の学年からも実施していく。</li> <li>・特別授業の時期と内容の検討</li> <li>・面談に来ないなどコントロールの利かない学生や学習に対する意識が低い学生に対する対策の検討。</li> </ul>
	卒業試験	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業試験は3回実施した。</li> <li>・試験問題の精度向上のため、試験作成者に昨年度作成問題の正答率提示・難易度配分依頼を行った。また、作成上、不適正問題がないように複数の教員で問題を確認する体制で行なった。</li> <li>・判定基準は、昨年同様の基準とした。</li> <li>・第54回国家試験結果は、PT:93.4%(新卒:94.4%、既卒:80.0%)、OT:65.0%(新卒69.7% 既卒42.9%)であり、全国平均 PT:85.8%、OT:71.3%で、OT学科が全国の合格率とを下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業試験問題作成時の依頼方法・問題校正作業の体制、合格基準等の検討は、継続して行っていく。</li> <li>・卒業試験の内容や合格基準について検討する。</li> <li>・卒業試験合格基準は、国家試験に準じた方法も検討していく。</li> </ul>
	卒業試験・実力試験	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も引き続き業者模試を含め、年間13回の実力試験を実施し、無事終了できた。分野別の正答率(平均点を含め)を提示し、学生個々の苦手分野への指導ツールとして利用できた。</li> <li>・実力試験では昨年度の卒業試験を取り入れ、全ての学生に卒業試験の過去問題が手に渡るようにした。過去問題を含め、卒業試験においても解説を公開し復習する機会を与えた。</li> <li>・2月の国家試験までの期間に実力試験がないため、卒業試験本試験合格者は、卒業試験の再試験を実力試験として、全員受験した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実力試験においては業者模試で、実地試験のみの試験の導入の検討。</li> <li>・1月は卒業試験と業者模試の試験日程が、タイトなので業者模試の日程と施行方法を検討する。</li> <li>・卒業試験の再試験を実力試験として全員受験することとする。</li> </ul>
臨床実習	臨床実習	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>【理学療法学科】( )昨年度</li> <li>・1年見学実習:81名修了(88名修了)。</li> <li>・2年次体験実習:合格79名、0項目あり0名(合格80名、0項目あり0名)</li> <li>・3年次臨床実習:合格77名、0項目あり0名、未実施1名(合格73名、0項目あり0名、未実施1名)</li> <li>・4年次臨床実習:合格71名、0項目あり0名、退学2名(合格86名、0項目あり0名)</li> <li>・指定規則改定に伴う新臨床実習ガイドラインについて、2019年度4年次臨床実習指導者会議にて説明し、意見交換を行った。</li> <li>・3年生セミナー授業における「症例のまとめ」の内容に改良を加え継続した。</li> <li>【作業療法学科】( )昨年度</li> <li>・1年見学実習:34名修了。(43名)</li> <li>・2年基礎実習:介助技法の習得は、授業・実技を学内で実施。介護老人保健施設等での1週間の実習も38名修了。(37名)</li> <li>・3年次臨床実習:対象学生36名(38名)中、合格31(30)名、不合格0(0)名、保留5(8)、中止0(0)、未実施0(0)。保留5名中、追加3名、学内4名;2名重複(昨年度8名;追加6名、学内3名;1名重複)</li> <li>・4年次臨床実習:合格35名(追加実習者2名含む)(40名)、不合格者1名(2名)。</li> <li>・生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進協力校A校として申請した。その基準を満たすように養成校に講演した。また基準指標として、MTDLPの臨床実習施設での使用が30%以上の目標は、結果60.0%(43/72)で達成できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【理学療法学科】</li> <li>・協会が作成する「臨床実習の手引」改訂版を基に、本校の実習の手引およびチェックリストを作成する。</li> <li>【作業療法学科】</li> <li>・今年度は生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進協力校A校その基準を満たすように、30%以上の実習施設でMTDLPを活用できるように臨床実習指導者に働きかける。</li> <li>・OT協会が作成する「臨床実習の手引」改訂版を基に、新カリキュラムにも対応(診療参加型実習)できるの実習の手引の見直しを行う。</li> </ul>
	臨床実習	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終了後、学内のセミナー(症例報告会)にて、実習における経験を共有した。</li> <li>・実習で明らかになった課題に対して、個々の学生が振り返りを行い、必要に応じて教員が指導・助言を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続</li> </ul>

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
平成30年度自己評価表

中村・水島	留年・退学者防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>強化組対策としての学習法の習得が再試験科目の減少につながったか。</li> <li>成績不良による留年・退学者数の減少ができたか。</li> </ul>	4	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生(21期生)の再試の平均数は1.08と昨年度(20期生)0.94とほぼ同様であった。留年者数は1年生(20期生)2名と昨年度(20期生)3名に対し微減したものの、その他に9名(昨年度の休学からの2名含む)の退学者(20期生9名)を出してしまった。再試験不合格者に対する再評価の制度を改良した初年あったが、結果としては昨年度とほぼ同様となった。</li> <li>2年生(20期生)の再試の平均数は1.63と昨年度(19期生)1.12に比べ増加したが、留年者数は2年生(20期生)2名と昨年度(19期生)4名に対して半減出来た。</li> <li>3年生(19期生)は再試数は0.54と昨年度(18期生)の0.59とほぼ同数であった。退学者1は長期休学からの進路変更であり、学力に起因するものではなかった。</li> </ul> <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度からの総合点による偏差値比較では、1年平均40.0(比較なし)、2年37.0(留年者2名除く前年度平均36.0で+1.0)、3年37.6(留年者1名除く前年度平均37.8で-0.2)で、2年においてプラスの効果があった。強化組で総合点偏差値35以下の者は、1年1名、2年2名、3年2名であった。</li> <li>後期の総合点による偏差値比較では、1年5名平均38.6(前期平均33.6で+5.0)、2年8名(含3名留年生除く)平均38.8(前期平均36.2で+2.6)で、1・2年においてプラスの効果があった。個別には、強化組対象で後期偏差値が前期偏差値を上回ったものがほとんどであったが、1年1名(退学)、2年2名(進級)が低下し、2年次偏差値上昇したものの再評価で留年になった1名の要因を分析し次年度につなげていく必要がある。</li> </ul>	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力低下者に対する強化組対策は継続強化する。</li> <li>初年次教育を充実させる。今年度は国語、数学の基礎試験を導入し、結果と本校の学業成績との関連について経過をたてる。</li> <li>解剖・生理、専門科目について、低学年からの補講、上位学年からの指導を継続強化する。</li> </ul> <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>強化組対策または早期の国家試験対策(放課後教室)を本年度も回数増加して実施する。</li> </ul>
	卒業生	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生の社会的活躍や評価を把握しているか。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>各関連学会、学会誌等で卒業生の動向を把握し、学校説明会において紹介した。</li> <li>概論の授業では、障害者スポーツに関して実技も交え講演を依頼している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>退学率の目標を設定しているか。またその成果は十分か。</li> <li>退学率の低減策が教職員に共有されているか。</li> <li>留年・退学結果について検証・報告を行ったか。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度は、留年率PT4.3%(昨年度3.2%)、OT4.5%(6.2%)・退学率はPT4.3%(4.7%)、OT3.9%(3.1%)であり、目標とした4%以内に留まらなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>退学率・留年率の数値目標4%以内を継続する。</li> </ul>

5. 学生支援

担当	評価項目	H30評価	H30達成状況	2019年度に取り組むべき課題等
岡村	社会性	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度初めは、新入生に社会性や公共性に欠ける言動の学生が散見されるため、基本的な生活習慣と社会性について指導した。また、実技授業等においても随時社会人・医療人としての資質の育成・向上に向けて指導を行った。</li> <li>障害者スポーツ大会サポート実習(ボランティア)では、高い評価を受け、関連した大会においてもボランティアを要請された。</li> <li>1年次の見学実習においても、チェックリストを使用し、結果を学生の個別支援に活かした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣と社会性については継続した指導を行う。</li> <li>理学療法学科では初年次教育として、学科教員で社会性を含めた指導に取り組む。</li> <li>1年次の見学実習におけるチェックリストは継続する方向で進める。</li> </ul>
机	行事	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生がより主体・主導的に動けるよう支援し、準備から当日まで滞りなく実施できた。また、地域作業所の出店や「つなぐカフェ」の実施をし、地域の皆さんにもご参加頂けた。</li> <li>食販では教職員で衛生面のチェックリストを参考にして巡回を行った。その結果、リアルタイムに衛生指導を実施することができた。</li> <li>最終日の後夜祭終了後、各教室を巡回した際、ゴミが残留している教室が認められた。また後夜祭前に下校している学生が多く、片付け作業で学祭委員に負担がかかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学園祭での地域作業所の出店や「つなぐカフェ」は次年度も継続して行い地域貢献を広げていきたいと考える。</li> <li>学生が主体的に楽しめる学園祭を支援すると共に、基本的に遵守しなければならない事項(ゴミ捨て)等の徹底を図る。</li> </ul>
		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度から新たに合同卒業式の実施が増え、やや当日の運営責任者や係担当が曖昧になることがあった。しかしながら連携スムーズに滞りなく実施できた。</li> <li>岩崎本部との打ち合わせなど多くなり、係内の業務量が増えている。本校だけの部分については準備作業の時期を早くし、本部の作業が実施できるよう対応した。</li> <li>教務部と事務局の行事に関する業務内容の確認が曖昧となっており、重複して作業したり不足したりということがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞りなく進められるよう業務整理をして教務部及び事務局との連携を強化する。</li> <li>合同卒業式など岩崎全体で行う行事については本部と連絡を強化する。</li> <li>学内で実施するその他の行事(成果発表大会やSVMなど)と合同卒業式や入学・進級式など行事が重なるため担当者の配置を検討し、1人あたりの業務負担を軽減できるよう工夫する。</li> </ul>
中村	個別指導	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な面談に加え、必要に応じて随時面談を実施している。各学科会議でも情報を共有し対応策を検討する中で、必要に応じてはスクールカウンセラーの利用を促すなど心身の健康問題等への適切な対応を行った。</li> <li>週1回学科会議および問題発生時適宜学生に関する情報交換を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>
		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生カルテを作成し、学生のプロフィール・緊急連絡先及び面接の記録、臨床実習の記録を保管している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>
		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任、国試担当教員、就職指導職員が対応にあたった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>
	健康管理・防犯	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生1回実施(平成30年度は4/4に実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年1回実施(2019年度は4/12に実施)</li> </ul>
		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>4/24薬物乱用防止セミナー実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし(2019年度は4月23日実施予定)</li> </ul>
	就職支援	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>年内内定率(PT:68.0%、OT:63.4%、全体62.9%)目標達成</li> <li>年度内内定率(PT:98.5%、OT:95.7%、全体:97.8%)</li> <li>現在、各学科1名が活動中である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、年内内定率60%、年度内内定率100%の達成に向け、教員と就職指導担当との連携をより高め、国試対策の進捗が順調な学生から早期内定を促していく。</li> <li>2019年度の合同就職説明会はこれまでの振り返りを元に実施時期、方法等改めて検討する。</li> </ul>
宮野	災害対策	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸塚消防署の協力にて避難訓練ならびに教職員に対する通報訓練実施。</li> <li>安全確認メーリングリストを整備。</li> <li>災害時用食料、防寒具を備蓄。</li> <li>災害対策マニュアルが本校の実態に即しているかについては引き続き精査が必要。</li> <li>「東戸塚駅周辺混乱防止対策連絡協議会」設置にかかわる連絡会に参加。</li> <li>通学時・学内外の実習における賠償責任保険に加入している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害対応マニュアルは継続して関連部署と検討中である。</li> </ul>
	経済援助・活動支援	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本学生支援機構奨学金に対応、岩崎学園奨学金を整備。</li> <li>岩崎ともみ奨学財団指定校(給付型奨学金)</li> <li>入学時および定期試験にて特待生選抜を行い、学費等の減免を行っている。</li> <li>学費分納納入を制度として実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年度より実施される高等教育費負担軽減新制度対象校として申請予定</li> </ul>
		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者への情報提供は行われているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き実施していく。</li> </ul>
		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>同窓会はあるか。</li> <li>卒業生へ学校情報を提供しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き同窓会活動を支援していく。</li> </ul>

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
平成30年度自己評価表

助	・クラブ活動を支援しているか。	4	・フットサル・ボランティア・バスケットボール・野球・陶芸・バレーボール・バドミントン・テニス・チアリーディング等の活動を顧問・補助金で支援している。 サークルで活用するロッカーも必要に応じて割り当てて使用できるようにしている。	・特になし
---	-----------------	---	--	-------

6. 教育環境

担当	評価項目	H30評価	H30達成状況	2019年度に取り組むべき課題等
宮野	・教室の数・広さ、実習室の数・広さは教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	・実習室の数、広さについては養成校設置基準に準拠している	・特になし
	・教室以外に休憩スペースが適切に置かれているか。 ・食堂や運動施設など教育環境を補完する施設が整備されているか。	4	・地下一階に学生ホール完備。各フロアに休憩スペース完備。 ・体育館、箱根研修所、岩崎ミュージアム(コンサートホール)所有。	・特になし
	校舎全体およびAV機器等の経年劣化に随時対応する。	4	校舎、設備は定期点検し、必要に応じて修理・刷新を実施。	・引き続き対応する
	・自宅学習を奨励するための設備を提供しているか。	4	・全学生ノートPC(ソフト)貸与し、導入時に最新の環境を提供している。 ・スマートフォンを利用した国家試験対策教材を使用 ・新規解剖生理学デジタル教材としてVisible Body(3D人体解剖学習リソース)を導入	・引き続き実施する
杉山	・図書室利用者数の増加ができたか。 ・蔵書を増加したか。 ・図書室を整理し使用しやすい環境設定ができたか。	3	・図書室活用を図るために、新規蔵書について周知を行い、図書室活用を促した。 ・教職員、学生より蔵書希望のアンケートを実施。蔵書の増加発注を実施した。 ・図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施した。蔵書を22の分類に分け、分野別に在庫確認を実施した。平成31年3月現在、3,793冊の総蔵書数となっている。	・図書活用を推進するために、新規購入蔵書について周知を行い、蔵書利用者の増加を図る。 ・引き続き図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施する。
	・WEB利用者数は増加したか。 ・メディカルオンラインの利用者数は増加したか。また、適正に利用できたか。	3	・メディカルオンラインの利用については、適正利用された。	・メディカルオンラインの利用については、引き続き適正利用と利用者増加を促す。 ・他の論文検索システムを検討する
	・最新機能を備えた機器、実習室などは整備されているか。	3	・「養成校備品・設備施設基準」に基づいて保有点検をした際、各実習室の機器、備品の整備を実施した。	・学生教育に必要な教材を継続して購入していく。 ・PT・OT養成施設指定規則の改訂に応じた変更について対応していく。
設備・備品	・各種マニュアル作り、破損・危険箇所への安全対策や備品の修理・新規購入が迅速に行われたか。	4	・教室内、倉庫内(2階、3階)を中心に物品の点検・整理を実施、不足品、欠品については、修理・補充を行った。	・備品の不足、破損に迅速に対応する。

7. 学生募集

担当	評価項目	H30評価	H30達成状況	2019年度に取り組むべき課題等
宮野	・学生募集計画があるか。また成果は十分か。	3	・2019年度生はPT学科で定員超過、OT学科で定員不足が発生した。	・定員の充足はもちろんのこと、定員超過にも十分注意する。 ・昨年度の振り返りを基に募集計画の変更について検討する。
	・入学案内書には以下の内容が明示されているか。 育成人材像、目指す資格・検定試験、学費・教材費、入学者選抜方法	4	・「入学案内書」「学生募集要項」に明示。	・特になし
	・入学に関する問い合わせに適切に対応できる体制ができていますか。	4	・入試事務局が対応。 フリーアクセス0800-800-4508 infoyrc@iwasaki.ac.jp ・希望に応じて個別相談実施。	・引き続き対応していく
	・学校説明会等において入学情報を提供できているか。	4	・「学校説明会」年間6回開催。 学校紹介・各学科紹介・教員紹介・職業講話・入学説明・校舎案内を実施。 ・「進学説明会」年間1回開催。 ・保護者向け、高校既卒者向け等、状況に合わせた説明会を実施した。 入試面接対策講話・入試情報・分析、個別相談を実施。	・引き続き高校生向け、保護者向け、進路指導教員向けイベントを実施していく
	・体験授業等で入学後の自分をイメージできるイベントを開催しているか。	4	・「ビギナーズリハビリ体験ゼミ」を定期的に開催。 ・例年実施している「病院見学」については協力予定施設にてインフルエンザ流行のため延期するも、問題なく実施し好評を得た。 ・短時間で校舎見学と体験が可能なオープンキャンパスを実施した。	・引き続きイベントを実施していく。
	・入学辞退者の授業料返還が適切に処理されているか。	4	・手続きについては「学生募集要項」記載。 ・2019年度生の入金後辞退者は2名。返金手続きを完了した。	・引き続き適正に対応していく。
	・入学予定者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4	・「プレップゼミ」として入学前に5回の入学前講座を開催。運動・解剖・生理学に触れ、入学後の学習や学生生活をイメージする機会となった。 ・入学ガイダンス、オリエンテーションを実施(4/3)。(学生生活、授業内容、学習方法、PC操作などを指導)	・引き続き「プレップゼミ」を開催していく。 ・入学ガイダンス(4/2)、オリエンテーションを実施済み。

8. 社会貢献

担当	評価項目	H30評価	H30達成状況	2019年度に取り組むべき課題等
宮野	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	・高校生向け講座:「仕事のまなび場」(夏休み2講座)・小中学生向け講座:「小中学生のためのチャレンジスクール」を実施した。 ・職能団体の技能研修会等開催のため、実習教室が活用された。 ・高校等からの依頼による出張授業に参加した。	・ソフトとしての人的資源とハードとしての施設等の資源の活用を引き続き図っていく。
	・学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか。	4	・学外者と学生との事故も想定し、安全確保を図りながら、学校休業日に教室・体育館を貸し出している。 ・地域の老人クラブイベントに施設を提供している。 ・後述の「つなぐカフェ」にて玄関ロビーを開放している。	・学校施設の利用については、地域の社会資源として活用を促していく。
	・ボランティアなどの社会活動に参加しているか。	4	・神奈川県障害スポーツ大会運営ボランティアへの協力:計5回(4/15、5/13、6/10、7/8)。理学・作業療法学科1年119名参加。 ・人体解剖展:6/2作業療法学科1年36名参加、他地域作業所ボランティア ・東品濃小夏祭りボラ(8/25):作業療法学科1年4名・2年2名参加。 ・11/18(日)ME-BYO県民フォーラム健康都市やまとフェア連携イベント:作業療法学科3年6名参加予定。 ・つなぐカフェ:6回実施、作業療法学科学生のべ1年8名、2年0名、3年35名、4年22名、のべ参加者66名 ・「介護デジタルハッカソンin横浜」説明会:7/14(火)作業療法学科1・2・3年計40名が説明会に参加。 ・FM戸塚(8/2):作業療法学科3年1名 ・敬老会(9/15):作業療法学科3年4名・4年3名 ・かなフルTV(9/18):作業療法学科3年1名・4年3名 ・パラスポーツ関係:理学療法学科学生多数参加。	・本年度も各イベントへ積極的に参加する。
・地域に対する公開講座などを主催しているか。	4	・地域住民対象の認知症予防を目的とした「つなぐカフェ」を毎月第2土曜日に開催。 TVK「かなふるTV」に取り上げられた。 ・H30年度はパラリンピアン土田和歌子氏をお招きしパラスポーツへの理解を深めた(9/26)	・本年度も「つなぐカフェ」を実施予定 ・オープンカレッジは、保育校との合同開催を計画中。	

9. 法令等の遵守

担当	評価項目	H30評価	H30達成状況	2019年度に取り組むべき課題等
----	------	-------	---------	------------------

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
平成30年度自己評価表

林 副 校 長	法 令 遵 守	・法令や専修学校設置基準を遵守しているか。	4	・所管の神奈川県へ学則変更等届出実施、現況調査(学生数・教職員数・卒業状況等)実施した。	・平成30年度は、PT学科で3人の定員超過、OT学科で1人の定員不足であり新学年は122名でスタートした。 ・定員の適正化を図る。
		・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	・個人情報保護規程を文書化。「学生募集要項」記載。	・作業中の書類等の管理に注意する
		・自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善につとめているか。	4	・自己評価は、学校運営の一部(授業アンケート、保護者アンケート、教職員の自己評価等)となっていた。平成24年度より「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、本形式にて実施している。	・PDCAサイクルの徹底に努める ・昨年度、卒業生並びに就職先上司に対するアンケート調査が実施された。
		・理学療法教育施設評価(第三者評価)受審対策に向けた情報収集を行えたか。 ・世界作業療法連名(WFOT)の「作業療法士教育の最低基準」の条件に満たしており、認定校として登録させているか。	4	・平成29年度は、特になし	・2017年4月1日～2022年3月31日までWFOT並びにリハビリテーション教育評価機構による認定が有効となっている。 ・2022年に再受審予定 ・指定規則の変更に伴うカリキュラムの改定を実施
		・自己評価結果を公開しているか。	4	・公開中。	・引き続き公開していく